

平成28年度第2回移動市長室会議録

(平成28年7月1日)

1 日 時：平成28年7月1日（金曜日）13時50分～15時20分

2 場 所：総合保健福祉センターカミーリヤ

3 出席者：

『筑紫野市食生活改善推進会』

西村会長、古瀬副会長、松田副会長、森崎会計、班長・副班長（15人）

『筑紫野市』

藤田市長、檜木健康福祉部長、吉武健康推進課長、野坂秘書広報課長、
真鍋健康推進課課長補佐、森田秘書広報課係長、末吉秘書広報課主査、
上田健康推進課主任

4 内 容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから平成28年度第2回、通算58回目の移動市長室を始めさせていただきます。本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。懇談の後半には、本日御参加いただいた皆様が発言できますように意見交換の時間を設けていますので、どうぞ忌憚のない御意見をよろしくお願いします。

なお、本日の懇談内容は、会議録を作成し公表します。撮影した写真は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきます。

それでは、初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。御紹介いただきました筑紫野市長の藤田陽三でございます。今日は、筑紫野市食生活改善推進会の皆さんと移動市長室として懇談させていただきましたことになりました。西村会長さんをはじめ、お集まりの皆様には、日ごろから保健行政はもとより市政の運営に御理解と御協力をいただき、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。また、御多用の中をこの移動市長室の開催に多大なる御尽力いただきましたことにも併せて厚く御礼を申し上げます。

さて、近年、食生活の簡便化等により、私たちを取り巻く食の環境は大きく変化し、栄養の偏りや食習慣の乱れ、肥満をはじめとする生活習慣病が増加しています。

皆様方におかれましては、日ごろから「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、地域における食生活改善の実践と普及活動を通じて、健康づくりと食育の推進に御貢献いただいておりますことに、心から敬意を表します。

今日は、日ごろの皆さんの活動を通しての課題等を伺いながら懇談をさせていただきたいとこのように思っております。どうか、皆様方の忌憚のない御意見、また、思いを伺わせていただきますよう、お願い申し上げます。私からの御挨拶とさせていただきます。皆さんよろしく願いいたします。

○（事務局） 続きまして、西村会長に御挨拶をよろしく申し上げます。

○（西村会長） こんにちは。今日は、市長をはじめ職員の皆様方にはお忙しい中、私たちの団体にお運びいただき、まことにありがとうございます。

私たち、筑紫野市食生活改善推進会は、「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に、地域に健康の輪を広げるため、毎月講習会を重ねてきております。そして、そこでスキルを上げ、自信を持ってボランティアに活動に臨んでいます。

後ほど詳しく活動について御説明いたしますが、昨年度より、コミュニティ単位での活動も始まったばかりで、課題も山積しております。どうぞ、適切な御指導、御助言のほど

よろしくお願いいたします。簡単ですが、御挨拶とさせていただきます。

- （事務局） ありがとうございます。ここで、本日の参加者の自己紹介を行いたいと思います。まずは市側から、私は、本日の司会を務めます秘書広報課の野坂です。
- （榎木健康福祉部長） 皆さん、こんにちは。健康福祉部長を仰せつかっております榎木です。皆様方には、日ごろから食生活改善に向けた取り組みをしていただいております、本当にありがとうございます。今日は、野菜350グラムの計量、大変楽しみにしてまいりました。
- （健康推進課） お世話になっております。健康推進課の吉武です。今日は、どうぞよろしくお願いいたします。
- （健康推進課） 健康推進課課長補佐兼推進担当係長の真鍋です。
- （健康推進課） 健康推進課健康推進担当の上田です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当係長の森田です。
- （事務局） 同じく秘書広報課広報広聴担当の末吉です。
- （事務局） 続きまして、食生活改善推進会の皆様、よろしくお願いいたします。
- （西村会長） 会長をしております西村です。会長になりまだ3年目です。よろしくお願いいたします。
- （古瀬副会長） 副会長をさせていただきます古瀬です。私も、所属は長いのですが、ちょこちょこしか参加してなくて、副会長という大役をいただいておりますが、またしっかり皆さんと協力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- （松田副会長） 同じく副会長をさせていただきます松田です。私は、息子が今、ちょうど若者で、朝はごはんを食べないで出勤したりしておりますので、日々、何とか野菜を食べさせようと常に苦心しております。いろいろと活動に生かせたらなと思っております。
- （森崎会計） 会計をさせていただきます森崎です。業務委託をさせていただきます。会計を預かる身としましては、身の引き締まる思いをしておりますので、大事に使わせていただいております。ありがとうございます。
- （1班副班長） 1班の副班長の高橋です。勤めていて、その後、退職して時間を工面する一環として入らせていただきました。結構今までは、あんまり考えないで、油でジャージャーって感じの料理が多かったのですが、食進に入りまして、やっぱり野菜をとるとか、添加物のこととか、いろいろ学ばせて楽しく過ごさせていただいております。

○（2班班長） 2班班長の原田です。入ったのが、平成14年なので結構長いのですが、最初は自分のためというか、自分が健康になりたいなというのと、家族の健康をということを考えたのですが、幼稚園に行ったり、保育所に行ったり、他の市民の皆さんと接して少しずつ広げていけたらなという思いなのですが、自分のペースでしているので、班長をするのも何か、ずっと長い間会員でありながら、休んだり来たりみたいな感じだったので、少しなじんできたかなと、自分のためになっていると思います。

○（2班副班長） 副班長の中村です。今年で入って6年目になるのですが、私の子どももちょうど6年生になって、子どもが1年生に入って、自分にちょっと余裕ができたかなと思って、この会に入りました。今、食育のほうをやらせていただいて、子どもたちと一緒に自分もいろいろ勉強して、会に入れてよかったと思います。

○（3班班長） 3班の班長をしておりますちくし台団地に住んでおります深町です。移動市長室では、市長とは12月につくしんぼの会で大変お世話になりました。私も平成17年から食進会の会員になっているのですが、体の調子が余りよくないときが続いて、最近ちょっと皆さんと一緒に頑張っているのですが、班長をさせていただいております。

そして、つくしんぼでは、毎回、近所を元気に歩いて会場に参加していただけるお年寄りにお声かけをして、そして、毎月第2土曜日に行っているのですが、1人300円をいただくのですが、お昼の食事とか、おやつとか、そしてゲームとか、社協から借りてきたゲームとか、そして、食進会で勉強したメニューがすごく役立って、皆さん、参加する方は、おいしいおいしいと言って食べていただいております。

これからも、私も年をとっておりますが、元気で動ける間は、つくしんぼの会も食進会も頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○（3班副班長） 筑紫地区の筑紫から参りました丸山喜代香です。食進会に入りまして3年目になります。中学生の子どもが2人います、これから若いお母さんたちも食進会に携わって、たくさんの方々が携わってけるといいなと思い、頑張っていきたいと思っております。

○（4班班長） 4班の班長を仰せつかっております森下です。まだ3年目で、中身が全然、よくわかってないので、皆さんに大変御迷惑かけておるのですが、頑張ります。

○（4班副班長） 永岡区4班の日野です。私も、同じく班長と一緒に3年目なのですが、私も長年働いておまして、定年退職後にシルバーのほうとか、永岡区のいきいきサロンに参加したりとか、福祉委員をやったりとか、できるだけ皆さんのお役に立てばと思

って頑張っております。

○（5班班長） 5班の山内です。私は食育に興味があって、ここに入ったときに、60代、70代の方が元気に、すてきに活躍されているのがとても励まされて、そして、何となく5年目を迎えました。そして、今、一番家族の食事の中で気を配っているのは、娘がいて、娘のお弁当をつくるようになって、できるだけバランスのいい、タンパク質をしっかりとらせたいなと思っています。

○（5班副班長） 5班の副班長太田です。私も8年ぐらいになるのですが、なかなか仕事があったりで、活動するのはその半分ぐらいですかね。なかなかいろんなところに行くこともできないのですが、男性の料理講座のほうにすごく行く機会が多くて、そのときに、皆さん70代の世代の方々が一生懸命なさっているのを見てみると、私の夫なんか全くしないから、この人は絶対に、私が先に逝ったら困るだろうなといつも思っております。だから、時間があれば、またいろんなことをやりたいと思います。できるだけ長く続けたいと思います。

○（6班班長） 6班班長の安部です。御笠地区のほうなのですが、御笠コミュニティには、地域の方が実践されてある野菜市場があります。それで、テーマになっています「野菜を食べよう1日350グラム」のテーマにぴったりの地域だと思いますけど、皆さん、どんどん推進していきたいと思っています。

○（6班副班長） 6班副班長の時枝です。食進会を通して、御笠コミュニティとか、竜岩自然の家とか、おやつづくりとかをやって、そして、地域の方とより身近に親しく拝見させていただいております。ありがとうございます。よろしく願いいたします。

○（事務局） ありがとうございます。

それでは、まず初めに、食進会に関連する筑紫野市の予算概要、それから施策について、市長のほうからパワーポイントを使って説明をさせていただきたいと思います。

○（藤田市長） じゃあ、西村会長さんのもとで食進に、あるいは健康づくりに努めてある皆さん方に、今、司会者からお話がありましたけれども、今年の、28年度の市の予算というのは、大体どういうふうになっているのかなというのを、少しパワーポイントを見ながら話をさせていただきたい、私から進めさせていただきたいと思います。

自主財源それから依存財源という歳入というところにあるわけですが、自主財源というのは何かというと、10万2千人の市民の皆さん方からいただいた税金であります。

我が市は、市民の皆さんからの税金の自主財源というのが、依存財源を上回っております。

して、おかげさまでですが、予算総額は301億8100万円ということで、自主財源が52.5%で、残りの47.5%というのが依存財源ということでもあります。

依存財源というのは、もう御案内のとおりですが、これは、国あるいは県からの交付金、あるいは銀行からの借り入れ、そういうようなものを含めて依存財源とっているものです。

福岡県は60市町村がございます。その中でも、自主財源が多いということは、やっぱりそれだけ財源的に裕福であるというふうに見られているところです。

歳出に入りまして、301億8100万円は何に使っているのというのを話しますと、一番大きい割合を占めているのが民生費、子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われているものであります。この予算が44.1%を占めて、その額が133億1千万円。

それから、次が土木費です。これが、道路や公園などの補修、あるいは建設に使われています。

それから、総務費であります。行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使われている財源になっています。

それから、次が衛生費です。こちらが皆さんたちに関係するところの健康づくりのための経費が含まれる予算であります。健康診断、予防接種、ごみ処理など、予算額で約29億2千万円、全体の9.7%であります。

次は公債費、市の借金を返済する費用ということになります。

次が教育費、教育や文化、スポーツなどに使われております。

最後に、その他、議会や農業、商業、消防などに使われている予算、これは、総額が301億8100万円ということで、10万2千人余の市民の皆さん方の生活を守っていくというようなことになるわけであります。

今、筑紫野市が進む基本的な考えというのを少しお話させていただきたいと思いますが、平成28年度を初年度とする第五次筑紫野市総合計画というのが、今年の3月にでき上がっておりますけれども、この中には、5つの政策に沿って市が行う全ての事業を体系的に策定しております。

まず最初に、行財政改革であります。それから、産業・雇用をつくる、生活を守る、共助社会づくり、未来をつくる、この5つの基本政策によって成り立っております。これらによりまして、「自然と街の共生都市 ひかり輝く筑紫野市づくり」を目指しているというのが、大方その予算に基づく第五次総合計画のあらましです。

この食進の活動をしてある、皆さん方に関係する事業を、これから幾つか御紹介をさせていただきますが、政策3の生活を守るというところにおいては、健康づくりの推進として、本年3月に第2次健康ちくしの21計画を策定しました。

健康づくりと食育は、相互に連携していくことが重要なことから、本計画は、健康増進計画と食育推進計画を一体化させ、さらなる健康づくりの施策を推進することとしているところです。食育活動の担い手である皆さん方と行政が協働して、健康寿命の延伸のため、これからも取り組みを展開してまいりたいと、このように考えているところであります。

続きまして、主な事業としまして、食育推進事業、この予算額が88万3千円です。地域での健康講座や食育教室など、望ましい食習慣の啓発・普及のための経費になります。

次に、健康づくり人材育成事業、この予算額が46万9千円です。市民主体の健康づくりを推進するために、健康づくりサポーターを養成・育成する経費でもあります。

次に、カミーリヤフェスティバル事業、この予算額が74万2千円です。健康と福祉をテーマに、皆さん方を初め多くの福祉ボランティア団体に御協力をいただき、実施をしております。

次に、健康づくり推進事業、この予算が620万5千円です。健康づくり運動に関する講座やウォーキングイベントの開催についての経費です。

これらの事業により、市民の皆さん、地域、行政が一体となり、「みんなでつくる健やかなまち ちくしの」の実現を目指してまいりますので、皆様方の今後の御協力をよろしくお願いを申し上げます。

さらに市では、今後4年間で特に重要になる取り組みを重点施策として設定をして、積極的な推進を図ることとしております。

その一つ目に、地域コミュニティ活動の充実です。市内には、七館目の二日市東コミュニティセンターが本年10月の開館を目指して、工事を現在進めております。

それから、二つ目が、浸水対策の推進です。高尾川・鷲田川の河川の浸水被害というのは、平成26年8月22日の豪雨災害によって、非常に甚大な被害を受けたわけです。その後、国、県に要請をして、昨年の平成27年4月に国の採択を受けて、高尾川床上浸水対策特別緊急事業として、県事業として、今現在、事業を推進している状況です。おおむね5年で全体事業が完成する予定ですが、総額は78億円の財源を含めて、5年間で完成を見る計画が、着々と進んでいるところです。

三つ目に、交通手段の充実として、交通事業者と連携をして、地域公共交通の維持・充

実を図ってまいりたい、このように考え、内部的なプロジェクト、あるいは外部からの審議会あたりを踏まえて、南北には主要幹線が通っているのですが、東西になかなか交通体系がとれないところがあって、まずは、やっぱり買い物弱者を含めて、高齢化社会を迎えるに当たっての交通の利便性を図っていく必要があると、このように考えて取り組みを図ってまいりたいと考えております。

さらに四つ目ですが、市街地の整備として、筑紫駅西口土地区画整理事業、これが約20年近く経っているのですが、いまだ完成をできていなくて、今年、この28年度中に、今、仮住まいをしていただいているわけなのですが、全ての仮住まいの方たちに換地をお返しして、もとの自分の土地にお帰りをいただくような事業を進めていきたいと思っておりますが、残念ながら、筑紫から美しが丘に進めている道路があるのですが、これは、ちょっと今停滞をしております。しかし、これもなるべく早期に解決を見る施策を、国、県の執行を見ながら、早期完成に向けて頑張っていきたいと思っております。

五つ目ですが、公有財産管理ということの中で、市庁舎が建てて79年になるわけですが、熊本の震災も今あって、続震が続いている中で、災害支援物資の要請に応え、そして、昨日、出発式をして人的支援の要請に応えて、今日、市の職員が、また益城町に出向しておりますが、そういうふうなことで、大変ないつ起こるかわからない震災、災害の復興支援の拠点となる市庁舎は、何としてもやはり建てなくてはならないと思っております。したがって、市民への説明会やパブリックコメントを経て、本年の5月に筑紫野市庁舎建設基本計画を策定しまして、新庁舎建設に向けた取り組みを、現在、進めているところ です。

本市は、御案内のとおり、歴史や文化、あるいは自然、交通の利便性、地域の人々など、たくさんの魅力があるまちでございます。これからも、さまざまな活動を進めながら、このまちに生まれてよかった、暮らしてよかったと誰もが思うまちづくりを今後とも進めてまいりたいと思っております。西村会長さんを初め、筑紫野市食生活改善推進会の皆様方には、今後とも御理解と御協力をお願いしていききたいと思っております。

何かこれは、終わりのお礼の挨拶みたい。これで終わりじゃございません。和やかに、それぞれの意見を出し合いながら、移動市長室の58回目はよかったというような移動市長室にさせていただければ、市長として大変ありがたいということを申し添えて、私からの説明にかえさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○（事務局） 以上が、主な施策概要の説明でした。続きまして、活動報告に移ります。食

生活改善推進会の活動について説明をお願いします。

○（西村会長） 失礼します。筑紫野市食生活改善推進会の活動を紹介します。「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に活動しています。

筑紫野市では、地域の健康づくりを食生活と運動の両面から支援するため、平成18年度より食生活改善推進員を健康づくりサポーターとして位置づけられています。これは、筑紫野市独自の先駆的な取り組みとして注目されています。

食生活改善推進会は、食生活改善推進員で構成され、地域の健康づくりを食生活の面からサポートし、推進しています。食生活改善推進員は、養成講習会を修了した者に交付されています。現在、全国で約17万人の食生活改善推進員が、1411市町村単位組織を持ち、活動をしています。現在では、生活習慣病の増加が大きな問題となり、その原因は、日ごろの食生活に深い関係があると言われてしています。

今年度より開始された第2次健康ちくしの21においても、健康増進計画に加えて、健康づくりの基本とも言える食の分野である食育推進計画が一体的に作成され、より地域に根差した食育推進の担い手として期待されていると感じているところです。

筑紫野市では、平成元年に始まり、現在の会員数は102名となっています。活動拠点は、ここカミーリヤとしております。

組織は、コミュニティ単位で6班作り、各班に班長、副班長を置いています。そして、その上に三役、会長1名、副会長2名、会計1名を置き、活動をしています。

これまでの歩みとしては、厚生省の栄養改善普及を受けて、昭和53年、婦人会の一部組織として設立されました。そして、平成元年、食生活改善推進会初めての総会を開催しました。平成3年には、婦人会から別に組織することになり、平成9年に筑紫野市独自の養成を開始することとなって、今日に至っています。平成30年には、30周年を迎えます。

これまでに、平成6年知事感謝状、平成11年福岡県栄養功労者表彰、平成22年厚生労働大臣表彰を受賞しています。また、お口の健康に関する料理レシピコンテストにおいて、3度入賞しています。

全国スローガンは「私たちの健康は私たちの手で」、筑紫野市のテーマは「地域に健康の輪を広げよう」です。筑紫野市活動目標は「食育を推進しましょう」、「中高年の食生活改善を進めましょう」、「活動記録をつけましょう」としています。

私たち食生活改善推進会は、講習会で得た知識を、活動を通して地域に普及することを

柱としています。

具体的な活動としては、市や地域の事業において、食の啓発やボランティア活動を展開する会としての活動と、地域や知り合いに食について学んだことを伝達する個人での活動の2つがあります。

こちらは、今年度の総会の様子です。市長におかれましては、毎年、来賓として御挨拶をいただき、ありがとうございます。年度初めの総会で、前年度の事業報告及び今年度の事業計画について審議します。

全体研修として、年に1回、館外研修を行っています。昨年は、大木町のおおき循環センターくるるんに行きました。今年は、佐賀の味の素の工場を見学しました。毎年、食に関する視察を行っています。

月1回の講習会では、食事や健康、防災などの学習会や調理実習を行っています。

また、ボランティア活動では、食文化継承のため、竜岩自然の家で季節に合わせた昔おやつ作りを行っています。今年の6月12日には、がめの葉饅頭と筑紫野市の伝統料理である白おこわを作りました。

その他、男性料理教室や親子料理教室を行っています。こちらは、親子でつくったお弁当です。親子の食育教室では、今、おむすびは、どこのお店でもコンビニに行っても買える状態ですが、母親が、お母さんが、お父さんでもいいですが、手で結んでやる、これは、ただの御飯を結ぶだけではなく、親子との子の絆を結ぶものだということ、それこそ本当に親と子の絆をしっかりと結んでいくものだということを伝えています。

それと、若い子育て中のお母さんたちには、賢い子を育てましょうと。賢い子を育てるためにはというと、お母さんたちは、もう本当真剣に聞かれます。そして、その中で、賢い子は「かしこいだし」で育つんだということ、カツオ、シイタケ、昆布、それからいりこ、「かしこい」、この4つの食材を使ってだしをとっていきましょうということ、若いお母さんたちにも伝えていきます。

また、幼稚園や保育所での訪問食育教室も行っています。紙芝居やクイズなどで、食の大切さを園児に伝えています。

このように、調理室から出て、外での活動が次第に増えてきています。

市主催の健康推進事業であるイベントの協力には、万葉の里ウオーキング、献血等ありますが、中でも、私たちにとっての一大イベントはカミーリヤフェスティバルです。バランスのよい食事の啓発をしています。今、テレビのCMでもありますが、「まごはやさし

いでお弁当作りました」というCMが流れていますが、バランスのよい食事ということで、「まごはやさしい」と覚えておくと覚えやすいですよということで、豆、それからゴマ、ワカメ、野菜、魚、シイタケ、芋。何か今は、「まごはやさしいよ」というので、最後に「よ」のヨーグルトをつけるという方もいらっしゃると思いますが、テレビのCMでは「まごはやさしい」というので流れているようです。

第2次健康ちくしの21の中にもありますように、成人期のバランスよく食べる市民の割合は、全体で72.1%となっています。20歳代では40%台、30歳代では約60%と、若い世代が特に少ない状況です。

また、福岡県では、特に野菜の摂取量が少ない傾向があり、厚生労働省の目標である350グラムより毎日60グラム不足しています。

そのため、バランスのよい食事の啓発に加えて、1日350グラムの野菜を食べようということで、展示物でお知らせしたり、実際に350グラムの野菜を計量するなどをしました。本日、あちらのほうに生の野菜を用意していますので、後ほど、ぜひ市長に体験していただきたいと思います。

こちらの試食コーナーでは、野菜のチヂミをつくって試食していただきました。

食育カルタのコーナーでは、大人も子どもも喜んでカルタ取りをしていました。

こちらは、3歳児健診のときの食育啓発です。子どもたちに野菜クイズをしたり、保護者にジュースに含まれる砂糖の量や嫌いな野菜を食べるポイントを伝えていきます。

こちらは、平成27年度の個人の活動実績です。生活習慣病の予防や高齢者の健康に関わるが多かったようです。今後、若い方やお子さん方にも普及できるよう努めたいと思います。以上で、活動報告を終わります。御清聴ありがとうございました。

○（事務局） ありがとうございました。

○（西村会長） 先ほど申しましたように、野菜350グラムの体験をしていただきたいと思いますので、準備をお願いします。

（市長・部長、野菜計量体験）

○（西村会長） それではですね、この丸ボーロは、私たちが作りました。市販よりも少し甘みが足りないかもしれませんが、どうぞお召しあがりください。

（丸ボーロ試食）

○（事務局） ごちそうさまでした。ありがとうございました。活動報告、ありがとうございました。野菜の計量も、思ったよりたくさんの野菜が350グラムということがよくわ

かりました。ありがとうございました。

まさに筑紫野市の食育を最前線で担ってあるというような、そういった活動の様子がよくわかりました。ありがとうございました。

それでは、次第に従いまして、8番、市よりの活動報告に関する質問、それから9番の要望・今後の取り組み・意見交換、これを一緒にまとめてさせていただきたいなと思っております。まず、御要望をいただいておりますので、こちらを御説明いただけますか。

- （古瀬副会長） 本日はありがとうございます。今から皆さんで、検討した要望を話させていただきます。先ほど、会長からの活動報告でも見ていただいたのですが、調理室以外での活動が増えてきているのです。例えば、市主催の健康推進事業でありますイベントのカミーリヤフェスティバル、それから、3歳児健診の食育啓発、また、幼稚園、保育所での食育教室などがあります。

全国食生活改善推進協議会では、外での活動のためのTシャツやブルゾンがあります。現在、私たちは、調理室以外の活動においては、今日着ていますピンクのエプロンを使用しておりますが、衛生面を考えると、エプロン以外のユニフォームで活動することが必要じゃないかなと思われまます。また、最近では、市民協働のコミュニティ運営協議会での活動も増えてきました。食生活改善推進会の認知度を上げるためにも、また外で活動するユニフォームが必要と感じています。

そこで、ぜひ、市で御協力いただける分があればいいなということで、検討していただければと思つての意見です。

- （藤田市長） これは、運動サポーターも制服持っていますよね。それに似通ったような感じですかね。今日、健康福祉部長が来ていますので、答弁は、こちらの健康福祉部長に譲りたいと思います。

- （檜木健康福祉部長） 失礼いたします。所管ですので、指名ですので、私からお話させていただきます。ユニフォームの購入費について御要望ということですが。

先ほどの活動報告を拝見しましても、保育所での食育教室とか、3歳児健診でのいろいろなパネル展示とか、そういったものを拝見させていただいたところでした、調理室以外の活動でもたくさん御尽力をいただいているという様子を拝見させていただきました。

活動場面によっては、エプロン着用のままでは、かえって衛生面や活動内容に適していない面があるのではないかなというように考えているところです。

そういったことからいたしまして、市といたしましても、102名のメンバーの方全員

にということには、一気になかなか準備は難しいと考えておりますけども、事業内容等も精査いたしまして、ユニフォーム相当の物を何かしら幾らかでも準備できないかと考えておるところです。

それと合わせまして、皆様方の認知度を上げるべく、そのためのいろんな手段、そういったものもユニフォーム相当の物と合わせまして、今後、皆様方の御意見をいただきながら進めさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

○（古瀬副会長） ありがとうございます。市長、よろしくお願ひします。

○（事務局） 以上、要望への回答でした。

○（藤田市長） 西村会長、余談ですけど、どんなにかいいユニフォームを、何か構想はあるのですか。

○（西村会長） もうそれこそTシャツでもいいと思うのですが、全国のは、きちっと決まったヘルスマイトというのと、私たちの健康は私たちの手でというのがありますが、筑紫野市ということで入れたいなというのは考えてはいますが、私たちは筑紫野市のヘルスマイトなんだっていうので、筑紫野市というのを入れたい。

○（藤田市長） ぜひ、お願ひします。やっぱり筑紫野市の食進会という感じのを強調してもらいたい、そうするとありがたいですね。お願ひしたいと思います。

○（事務局） はい、では、続いて。

○（6班班長） 今後の取り組みについて、読ませていただきます。

今年4月に、熊本・大分地方を地震が襲いました。想像を絶する揺れに、倒壊する住宅や熊本城、阿蘇神社などの文化財も大きな被害を受けました。犠牲になられました皆様には追悼の意を、また、被害に遭われました皆様にはお見舞いを申し上げます。

長引く余震に、今なお多くの住民が、避難生活を余儀なくされております。

今回の熊本地震においては、避難所における食中毒や食料の大量廃棄などがテレビでも報道されており、今後、災害時の食の問題についても考えていかなければなりません。

近年、みかさ台公民館や団地内の公園に、かまどベンチが合計4基備えられました。かまどベンチは、普段は休憩や語らいのベンチとして使われておりますが、非常時には炊き出し用のかまどとして利用できるベンチです。

このように、地域においても災害時の食の備えに対する意識が高まってきている中、地域に根差した食育推進の担い手である食生活改善推進会は、地域の設備や災害時の食に対する学習を深め、会として啓発できることを検討していく必要があると考えております。

ぜひ、市の御協力をいただきながら、市の備蓄等の現状や家庭の備えについての学習を深め、自助・共助の取り組みを地域に広めていきたいと思っております。今後とも御支援をお願いします。

○（藤田市長） すばらしい提案だと思います。

○（西村会長） かまどベンチというのを教えていただくまで、知らない者が多かったのです。初めてかまどベンチというのを知りました。

○（藤田市長） そうですか。

○（西村会長） 実際にそこで炊き出しとかもされるらしくて、備蓄している物を、1年間そこの倉庫に入れておいた物を、1人が500円出して、それを料理されるらしいのです。

○（森崎会計） 腰を下ろすところは板でできておりまして、これを燃やして燃料にすることができます。

○（藤田市長） そうですか。みかさ台に作ってあるのですか。

○（6班班長） はい、みかさ台公民館の前の駐車場に、公園になっているところに。

○（藤田市長） ワンコインもやってあるところでしょう。

○（6班班長） あそこで2基です。あともう一つ、団地内に瀬戸山公園というのが、そこに2基です。

○（藤田市長） そうですか。今度、視察させてもらいます。

○（6班班長） よろしく願いいたします。

○（西村会長） だから、新しくつくられるところは、そういうのも考慮して。

○（藤田市長） そうですよ。

○（西村会長） 筑紫コミュニティも公園ができていますけど、余り人気ないみたいな。知らないからですね。駐車場を全部公園にしてあるから。

○（藤田市長） これは、もう全く余談ですけど、みかさ台は、ワンコインパーティーというのをやっていて、私も10回ぐらい参加させていただいているのですが、ネームの色が変わってきまして、だんだん経験者になってきております。すごく地域の輪、絆、そして、男性料理、女性料理があって、とてもじゃない、にぎわうのですよ。もう楽しみにしています。お帰りになったら、市長がばかなこと言っていたって言っておいってください。いや、あれ、すごいですよね。

○（西村会長） でも、実際あっても、使い方を若い人たちは知らないだろうということで、やっぱり私たちが学習していかないと、あれをまきにしたところで、火もつけられないと

ころだったらと思って。

- （3班班長） 1年間備蓄したものを使って、また買って備蓄するのだそうです。
- （藤田市長） そういう循環ができたらいいですよね。いいアイデアだと思います。ありがとうございました。
- （3班班長） 私たちのところもよろしくお願いします。
- （藤田市長） 今度、つくしんぼの会も視察に行かないといけない。
- （3班班長） みんな年をとっているけど、みんな元気ですよ。
- （藤田市長） 楽しかったですね、あのときも。
- （3班班長） ありがとうございます。まさかこんなに早くお会いするなんて。
- （藤田市長） いや、ありがたいですよ。
- （事務局） 他、皆さんのほうから、せっかくですから、市長に言うておきたいとか聞いてみたいことがありましたら、どうぞ。

逆に聞かせていただいてもよろしいですか。最近、テレビとか見て、若いタレントさんが、ぐちゃぐちゃな料理を作っていたりとか、それとか、ニュースで、最近の若い女性が以前よりやせ過ぎているというような、そういう報道もあるのですが、さっきも自己紹介の中で、息子さんに野菜を食べさせるのに苦勞しているという、若者に対する食育とか、そういったことについて、何か思いとかを、どなたかお聞かせいただきたいなと思うのですが、お願いします。

- （森崎会計） おなかがすいたから、何でもいい、食べればいいのかというものじゃないと思うのです。やっぱり栄養というのがありまして、タンパク質が血、髪の毛やら皮膚やら爪やら、全部そういうのを組織しているのだけれど、タンパク質だけ食べればいいのかというものではないのですよ。やっぱり5大栄養素というのがありますけれど、5大栄養素をバランスよく食べるということが大事になってくると思います。

そこで、小学校とかに本来ならば、4年生ぐらいから始まりますかね、調理実習が。そのときに、食進会がもし出前教室みたいなので行けるようになると、ちっちゃい間からやっぱり栄養に対しての自覚があるのとないのでは違うと思うのです。

うちも38歳の子どもがいるのですがけれど、朝は抜いたり、それから、店屋物とったりというようなことが続きますと、やっぱり体を害しているのじゃないかしらと心配になります。ちっちゃい間からの教育というのは大事じゃないかなと思います。

- （事務局） ありがとうございます。

- （西村会長） 今のにつけ加えてよろしいでしょうか。幼稚園や保育所に、私たちは食育教室に行っているのですけども、小学校には今のところ行っていません。小学校のほうは、栄養士さんというのが各学校に置かれているのですか、筑紫野市は。他の市町村で、栄養士がいるところとか、それから、学校で給食をつくっているところもありますが、筑紫野市はセンター方式だから、栄養士さんというのは、各学校にはいないのですよね。
- （藤田市長） と思います。
- （古瀬副会長） 何校かまとめた配置はあるのではなかったか。
- （西村会長） 各学校に栄養指導とかで入ってありますか。
- （藤田市長） 各学校は、ちょっと調べてみないとわかりませんが、ないのじゃないかと。共同調理場という形で、給食を配送していますので、今、9600食作っているのですよ。それを一遍に作っていますから、だから、西村会長が言われるような各学校にというのは、ちょっと調べてみないとわかりませんね。
- （西村会長） できたら、先ほども言われたように、幼稚園や保育所には、私たち、要望があれば、もう栄養指導ということで行っていますので、あと、時間がないとか、なかなか取れないかもわかりませんが。
- （藤田市長） カリキュラムがありますからね。
- （西村会長） 学級指導というのがあって、栄養指導は必ずやっていると思うので、してあると思うのですが。
- （藤田市長） なるほどね、今の提案はいい提案ですから、教育委員会に持ち帰って、ちょっと協議してみたいと思います。ありがとうございます。
- （松田副会長） うちの、25歳の一番下の息子がおりまして、子どものときはよく卵焼き作ったりとか、小学校ぐらいまでは、料理に対して非常に興味はあったのですが、だんだん時間の余裕がなくなって、今はもう本当に朝は抜き、そして、昼はコンビニとかで、夜はさすがに、最近ダイエットに目覚めまして、野菜を食べなきゃって、それで、私もせっせと、今日の350グラムの準備もありまして、トマトのこのぐらいが100グラムとか、そういうのを言っているのですけど、やっぱり小さいときは非常に興味があったにもかかわらず、どうしてこんな大人になってしまったのだろうみたいな。
- 若いお母さん方は、とても子育てに、添加物がない物を食べさせたいとか、非常に熱心な方もいらっしゃるし、お仕事が忙しくてそこまでの余裕がない方もいらっしゃるの、今、食進会は結構年齢が高い方が多くなっているのですけれど、できれば若いお母さん方

も一緒に活動できるような、そんなふうなシステムというか、そういうふうにやっていければいいかなと思っています。

もちろん学校でのそういった指導も大事ですけど、家庭でやっぱりお母さんが意識を持っていただくというのが、とても大事になっていくのかなと思って、若い方をどんどん、丸山さんなんかもナンバーワンで若いですけど、どしどしそういう方に入っていて、活動を活発に広げていければいいかなというふうに思います。

○（藤田市長） なるほどですね。

○（事務局） 丸山さん、いかがですか。

○（3班副班長） やっぱり私もすごく食に興味があって、食べた物でしか体って作られないと思います。今日も、ぱっと市長を見た瞬間に、ああ、肌つやがいいなというのを、そこにすぐ目が行ってしまうのです。肌つやのいい人は何を食べているのだろうって、こちらのほうが興味を持つぐらいなのですけども。

○（藤田市長） 今いただいたものがわかったでしょう。あれなのですよ。

○（3班副班長） やっぱり若いお母さんたちが、興味のある方っていらっしゃると思うのですが、やっぱり時間がないとか、どうしても拘束されてしまうとかあるので、もうちょっと食進会のことを知ってほしいなと思います。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。

○（西村会長） 働いてあるお母さん方が多いから、なかなか平日にそういう教室を開いても来られないと思いますので、今回は土曜日に計画したのです、8月に。夏休みだと、今度は子どもがいるから出て来られないかなとか思いながら、なかなか日にちの設定するのが難しいです。お年寄りだったら、もう平日の昼間で十分出て来られると思うのですが。若いお母さんたちに知ってほしい、聞いてほしいと思うから、できたら土曜日ぐらいだったら、お仕事がお休みの方がいらっしゃるかなというのは思うのですけど。

○（藤田市長） いろいろと手法は考えながら進めていかれるだろうと思いますが、102名の会員さんがいらっしゃって、そして、もう30年からの歴史を持って延々と続いていて、特に食生活、食文化、もう食に関する関心はだんだん高まってきていますから、いずれ、やっぱり西村会長がおっしゃるような組織は、皆さんが考えてあるような、若い人たちの関心はだんだん増えてくるのじゃないかなと思います。現実には生活をしてみて、子育てをしてみて、これじゃいけないと気づいてくるところが、随分大きくなってきているのだろうと思うのです。それで、こういうふうなところで、素晴らしい学びをいただく

と、だんだん食進というのは発展していかざるを得ないような立場になってくるのじゃないかなと。

西村会長が言われるように、総会ときは、どっと皆さんおられるじゃないですか。もう圧倒されて、もう挨拶もそこそこになっているのですが、しかし、今日のように幹部の皆様方がお集まりになっての懇談の場というのは、非常にやっぱり前向きのすばらしい意見が出ていますので、私、本当に今日の移動市長室はありがたいなと思って、むしろ帰ることがいっぱいあって、ありがたいと思っています。

それぞれの所管、健康福祉部もおりますけど、教育分野もあれば、いろんな分野が、庁議、今8部長おりますから、471名という職員が動いているのです。それに、もう古瀬先生はもう卒業されましたけど、市議会議員がたくさんおられまして、あれはだめ、これはだめという、それを市長は受けて答弁していくわけですから、大変な仕事なのですが、今日のは非常に会合としては参考、勉強させていただきまして、ありがとうございます。またお礼の挨拶になりました。別に早く終わろうと思って言うのじゃないですよ。

- （西村会長） でも、余談ですけど、いろんな会合に行かせていただくと、本当に勉強になるのですね。幼稚園とか保育所から、今、子どものアレルギー。
- （藤田市長） あるのですよ。
- （西村会長） お米アレルギーというのがあるそうで、初めて知ったのですが。
- （藤田市長） 何を食べさせたらいいのか。
- （西村会長） 小麦アレルギーとかそばアレルギーとか、そういうのは聞いていましたけど、お米が食べられないって、驚きました。御飯はダイエットには一番いいと聞いたのです、グルテンがあるから。
- （藤田市長） それかと思うと、もう小学校に上がってきたときからインシュリンを打たなければならなかったり、そんな子どもさんもいらっしゃるのですよ。だから、食生活の大事さというのは、もうみんなわかってきていると思うのです。それと、もう今、西村会長の言われるように、アレルギーの多いこと。
- （西村会長） 昔はこんなになかったですね。
- （藤田市長） おなかが減ってたまらないから、畑の芋を掘って食べていました。
- （事務局） 今、子どもの話が出たのですが、子どもの食育というのもやはりテーマとしては大きいと思うのですが、今、子どもの食育を話す上で、子どもの貧困とか、例えば子ども食堂、新聞に載っていましたが、そういったのも上がってくるのかなと思う

のですが、会の中でも何か思いがあったりとか、それぞれ若いお母さんもいらっしゃる
ので、そのあたりはいかがでしょうか。

- （西村会長） 話題になったことは、ないですね。難しいですね。
- （藤田市長） 子どもの貧困は、今、6月議会が終わったばかりですが、たまに質問事項の中に含まれてくるようになりましたね。この問題も難しいですよ、本当に。
- （西村会長） 本当に食べられないのか、御飯食べないで学校に来たりする子もいるのですが、もう本当パンだけかじったりとか、そういうので来る子もいるのですが、お母さんが忙しくてしてないのか、本当に貧しくて食べて来ないのかというところが難しいですね。
- （藤田市長） これから、これが貧困だって定義づけることができないものですから、非常に、今、会長が言うように難しいのです。
- （古瀬副会長） アンテナを張って、いろんなそういったのがあったときは、またこのようにみんなで出し合って、そういった発信や情報の受け手でもあれたらいいなって。
- （藤田市長） しかし、会長、この食進の場合は、やっぱりよりよいものを、健康を維持して、みんなの健康寿命を高齢者の方は延ばす、あるいは若い人たちは、自分の精神とともに体づくりのために、健康というものを学んでいこうと、こちら辺に主体性があるのだらうと思いますので、これは、子どもの貧困というところまで介入していくのは、これはちょっと難しい。これは、やっぱり真っすぐな方針を、少し寄り道しないといけないようになりますので、全国に食進があるというお話もありますので、これは、やっぱり主たる方針を全うするじゃないですが、やっぱりやっていくと、すばらしい会になっていくのじゃないかなと。みんながそこに、もうお世話にならなくちゃならないようになってくるだらうと思いますね。今、飽食社会の副産物ですよ。もうむちゃくちゃなこと、やっぱり食べていますから。それをここできちっと整理していただきたいというところに、僕は、もう最大の魅力があると思うのですよね。
- （西村会長） バランスよく食べましょうとか、子どもの食生活、若い人の食生活、お年寄りの食生活とまた違いますから、野菜食べましょうと言っても、お年寄りには野菜を食べましょうとは余り言えないのですね。これまた低栄養になるし、タンパクが減ってくるので、食べられないお年寄りに野菜をいっぱい食べて、おなかいっぱいになって、他のものが食べられないという状況を作ってはまただめですから、そういう意味で、いろんな学習をしていかなければいけないのかなと思います。

○（藤田市長） それも、やっぱり飽食に浸っていますから、その弊害が子どもにも出ているし、大人にも出ているわけで、どんな物を食べていたら自分の健康が維持できるのかすらもわからない。サプリメントに全部走るか。

○（古瀬副会長） 青汁とかですね。

○（藤田市長） それを考えると、この会は重要な役目を果たされる会だと僕は思うのです。

○（古瀬副会長） 一時期テレビで、幾ら食べてもおなかが大きくなる、ああいうのも物すごくいらだってしまうように、ありましたね。ちょっと最近減ったかなって思うのですが、本当、目印になって、私も情報をどんどん入れて、発信をしていかないといけないのだから、改めて感じますね。高齢者だったら、そうですね、タンパク質、元気になる物も食べないといけない。本当、学習、学習ですね。

○（藤田市長） これもまた余談ですけど、給食共同調理場、一昨年、古瀬市議会議員がまだいらっしやったころ、5億円かけて改修したのです。それで9600食出していますので、それを各小中学校、生徒と一緒に食べて回るのです。それをもうずっとやっています。それで、「どうだい?」、「おいしい」って。「前のころと今のは?」、「今がおいしい」。「何か欲しいものある?」、「デザート増やして」って、違うやろって。その次は「ラーメン作っちゃらん」って。

それでも、楽しい会話をして、食事して、給食代を払って帰るのですが、教育委員会も手分けしてやっています。ずっと毎年やっているのです。そうすると、やっぱり子どもたちは食べ残しがないのです。ほとんど残菜がない。それは、5億円かけたかいがあったなと思って。

今、会長が言われるように、アレルギーがもう増えてくるのです。

いろんな悩みが、毎日起こっていますけど、食進会には、本当今日来て、繰り返しますが、いいことしていただいているなと思って、感心しました。

○（檜木健康福祉部長） 市長さんは、政策として、給食に地元産の野菜を取り入れられる。どんどん地元産野菜の消費量は上がってきております。

○（藤田市長） 地産地消ですね。そういうのもやらないと、案外、筑紫野は農業従事者の家庭が多いのです。那珂川とうちが大体そうで、春日・大野城は全然、田んぼにはもうマンション建ててしまって、野菜は全然作ってない。

○（西村会長） 那珂川はヤーコンという食材があるのですが、それを使ったいろんなレシピが今できているのです。だから、筑紫野市も、できたら地産地消で、筑紫野市の食材、

これがあるというのがあるといいのですが、今のところ山口のショウガとか。

○（**檜木健康福祉部長**） ブロッコリーとか、山口のみそ。

○（**西村会長**） はい。それを使ったレシピが、できると私たちはいいかなって。いろいろとやりたいことはいっぱいあるから。

○（**事務局**） そういうのをどんどんお聞かせください。

○（**藤田市長**） やっぱり会長が、そういうチャレンジ精神というか、前向きに、前向きにというのがあるからいいのです。マンネリ化するというのが、やっぱり一番いけませんね。この会はこれまでよというのがいけない。もっと何か、もっと何かと考えてある会長の発言だと思います。

○（**事務局**） 他、これは言っておきたいというのはありませんか。皆さん、それぞれに熱い思いはおありだろうと思いますけど、よろしいでしょうか。他にないということであれば、今日の最後になりますが、市長のお礼の挨拶ということで、よろしいですか。

○（**藤田市長**） もう一言、今日の食進会の歴史を含めての活動、そして、今後に対する意欲、皆さん方の御意見の中から、たくさん持ち帰って今後の市の行政に生かしていく、また、取り入れていく、そういうふうなところをたくさん勉強させていただくことができたことを、西村会長をはじめ、今日御参加の班長さん・副班長さんを含めた102名の会員の皆さん方に心から感謝御礼を申し上げて、私の御礼の言葉に代えさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。